



A

A: 田川 勝 (東シナ海)

日本近海 Japanese Waters

市場名: シロイカ

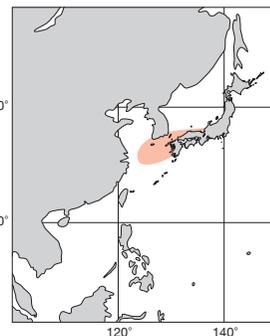
FAO名(英): Budo squid

ML 40cm. 日本海西部に分布するケンサキイカの季節型で *Loligo budo* Wakiya & Ishikawa, 1921 の名が与えられた。鰭の長さは外套長の 65% ぐらい。腕の吸盤角質環の特徴はケンサキイカの他型と同様截断状の歯が数個あるが、触腕掌部がそれらに比し広く大きく、ここの吸盤は III 腕の吸盤より大きい。外套膜は外見ケンサキイカのごトウイカ型などより太目で(外套幅は長さの 30%)、腹中線の肉叢は殆ど見られない。「白ずるめ」の材料は本種。

付記: Sasaki (1929) が *Loligo edulis* forma *grandipes* として型で、秋冬期のみ日本海西部にあらわれ、幼期はケンサキイカの他型と区別できない。

A seasonal brood of the preceding form. Head-arm part, especially tentacles, proportionally much larger than those in the preceding form. FW about 30% FL. Fleshy ridge on the male's ventrum less pronounced. Tentacle suckers a little larger than those of Arm III. Confined to the western part of Japan Sea and west coast of Kyushu in fall to winter seasons. This is *Loligo budo* Wakiya & Ishikawa, 1921 and *L. edulis* forma *grandipes* Sasaki, 1929.

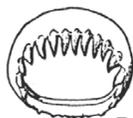
[A. 背面 (♀ 171mm)]



ヒラケンサキイカ *Uroteuthis (Photololigo) chinensis* (Gray, 1849) / ヤリイカ科 Loliginidae



A



B



C

A: 窪寺恒己 (東シナ海), B, C: Sasaki (1929)

日本近海 Japanese Waters

FAO名(英): Mitre squid

ML 40cm. 細長く大型のヤリイカ類。鰭は長い菱形で、後縁は殆どまっすぐ。II・III 腕の大吸盤の角質環歯は鋭い円錐形の歯が約 10 本あり、基部寄りの縁は殆ど平滑であるが、退化的な微小歯が刻まれる場合もある。雄の左 IV 腕は交接腕となっていて、先端の 1/3 の吸盤が退化して 30 対以上の肉嘴列になっている。触腕はやや細く、触腕の吸盤 4 列のうち中央 2 列のものは縁列のもの 1.5 倍大。角質環には約 30 本の鋭い円錐形の歯があるが、そのうち 10 本は大きく、それらの間にある 1~4 本は小さい。南西諸島~東南アジア・オーストラリア北部。

付記: かつて *Loligo formosana* Sasaki, 1929 という学名が用いられていた種。又オーストラリア近海の種にあてられていた *L. etheridgei* Berry, 1918 も異名。脇谷・石川 (1921) が「ヒラケンサキイカ」と称したものは *U. edulis* の一変異標本と思われ、本種とは異なるが和名が流用された。

Large loliginid, commercially important for Southeast Asia. Fins rhombic with straight posterior margin. Arm sucker rings with about ten sharp, conical teeth on distal margin. Tentacular sucker rings also with sharp, conical teeth, about 30 in number. *Loligo formosana* and *L. etheridgei* are synonyms. Southwestern Japan, southward to Southeast Asia and northern Australia.

[A. 背面; B. III 腕大吸盤角質環; C. 触腕大吸盤角質環]

